



全労生・事務局長
(基幹労連・特別役員)

西澤 昇治郎

返るとともに、今後の三原則の意義を唱え、運動、活動を一段と加速させるべく、毎年実施してきた「中央討論集会」を「中央研究集会」に変え、問題提起や情報発信を行い広く理解を求めていくため、シンポジウムを開

現することもできない。また、その基盤が労使の相互信頼と協力・協議であることも我々は肝に銘じなければならぬ。

運動とは何か、その運動推進に向けた労使の役割は何かを問うことにしている。その「解」に向けた方向性が浮き彫りになれば主催者として望外の幸せである。

また、本集会ではア

真の生産性運動を問う

全国労組生産性中央研究集会へご参加を！

催することとした。本集会の開催趣旨は次の通りである。

これらに対応するキーワードとして、真の生産性運動・生産性三原則の深化(質の向上)を据え、新たな挑戦と国民運動としての拡がりをはからなければ、日本の明るい未来を描くことも安心社会を

我々の思いと決意の表れでもある。公正と効率を重んじる真の生産性運動の推進に向けて、産業界労使が共通の認識を持つことが、その出発点である。本プログラムの内容は、

また、本集会ではア

基本理念とする生産性

くことも安心社会を

た「生産性三原則の誠実な履行」にあるとい

る

全国労働組合生産性会議(全労生)は、50周年宣言の具現化を

指した運動展開の指針(ガイドライン)に基

づく活動を開始し5年

度は、この中間年として

今までの活動を振り

返るとともに、今後の

三原則の意義を唱え

運動、活動を一段と

加速させるべく、毎年

実施してきた「中央討

論集会」を「中央研究

集会」に変え、問題提

起や情報発信を行い

広く理解を求めていく

ため、シンポジウムを

開

催することとした。本

集会の開催趣旨は次の

通りである。

本年で55周年を迎え

た全労生は、これまで

労組の立場から生産性

運動を推進する中核体

として、人間性尊重を

基本理念とする生産性

くことも安心社会を

描くことも安心社会を

実現

実現